会報
みちびき
平成26年3月
第115号
東京都公立学校
情緒障害
教育研究会

都情研変化の年に向かって

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長
練馬区立旭丘小学校校長
竹淵正人

平成二十五年四月二十三日、豊島公会堂において、東京都公立学校情緒障害教育研究会定期総会が開催され、今年度の活動が始まり、一年が過ぎようとしています。平成二十五年度、情緒障害等通級学級・固定学級の在籍児童・生徒数は小学校で二〇九校六七七学級、五，七四三人、中学校では一〇一校二一五学級、一，六一二人、計三一〇校八九二学級、児童・生徒数は七，三五五人と増加しています。さらに、関わる教員数は一，一九六人にのぼります。東京都の試算では、平成三十二年には八，八〇〇人を超える児童・生徒が通級または固定級に在籍することになります。そういう状況の中で、都情研の組織をどう維持していくか、研修の充実をどう進めていくか、大きな課題と考えています。

今年度も、長期休業中を中心に研究協議会をはじめ、多くの研修が開催され私も参加しました。通常級では学習に集中できない子どもが増加し、クラス内には六・五％の割合で発達障害を有する児童等が何らかの支援を受けている現状があります。今年度の研修会には通常級の先生方も多数参加され、どの日も会場がいっぱいになる盛況ぶりでした。講義をしていただいた先生方、計画から実施まで運営をしていただいたスタッフの先生方には深く感謝しております。

さて、東京都特別支援教室モデル事業が平成二十四年度から始まり、二年目を終えようとしています。私もモデル事業を行っている目黒区と狛江市の拠点校の視察に行きました。指導に対しての新しい試みや、巡回校との連携について見聞することができました。来年度はこの事業の最終年度になります。四地区（目黒区・北区・狛江市・羽村市）のモデル事業の結果（成果と課題）を受け、平成二十八年度、実施に向け各教育委員会や学校は施設整備、人材配置・育成、巡回方法等、学習環境整備について詰めの年度に入っていきます。私たちにとって、これらの課題についてどう対応していくかも真剣に討議し、対策を講じていかなければなりません。そのためにも全都的なレベルで情報交換ができる都情研の果たす役割がさらに重要となってきます。研究活動を充実させ、会員のスキルアップを図りながら、本会の発展を会員の力を合わせながら進めたいと願っております。

最後になりましたが、講師でおいでいただきました先生方、みちびきに資料を提供していただきました先生方、今後とも都情研発展のためにお力をお貸しいただけますようよろしくお願いします。また、東京都教育委員会都立学校教育部主任指導主事伏見明先生には「東京都特別支援教育第三次実施計画」についてご講演をいただくとともに、都情研からの要望等に対し、ご理解とご支援をいただいたことに深く感謝申し上げます。

お知らせ

◎平成二十六年度東京都公立学校情緒障害教育研究会　定期総会

＊四月二十一日（月）二時開始
国立オリンピック記念青少年総合センター　カルチャー棟大ホール

◎特別研究部夏季研修会のお知らせ

＊七月三十日　十時～十二時四十分
狛江市エコルマホール
講師　橋本創一先生（東京学芸大学教授）
演題「通常の学級の担任が行うアセスメントと授業への活用」

＊七月三十日　十三時五十分～十六時半
講師　佐藤里美先生（株式会社エデュアス事業推進部担当部長・東京大学先端科学技術研究センター支援情報システム分野協力研究員）、井上賞子先生（島根県立安来市立赤江小学校）
演題「児童の特性に応じた指導へのＩＣＴの活用～タブレットを使った支援の実際～」

＊七月三十一日　十時～十二時四十分
講師　吉本裕子先生（帝京大学教職大学院客員准教授・調布市教育委員会教育支援コーディネーター・インクルーシブ教育システム構築モデル事業合理的配慮協力員）
演題「学校全体で取り組む特別支援教育」

＊七月三十一日　十三時五十分～十六時半
講師　星山麻木先生（明星大学教授・こども家族早期発達支援学会会長）
演題「子どもの発達支援を考える～人と人を繋ぐ支援を目指して～」

※通常学級の先生方をはじめ多くの方の参加をお待ちしております。

頑張りカードで課題を乗り越える

町田市立つくし野小学校　井上　紀子　先生

今回は情緒障害等通級指導学級に通う児童への支援、在籍学級においての実践を報告していただく内容で、井上紀子先生に寄稿文をお願い致しました。

感情のコントロールや集団行動の苦手な児童に対しての「頑張りカード」を柱とした取り組みです。情緒障害等通級指導学級の先生だけでなく、通常学級の担任の先生にも参考にしていただける内容になっていると思います。ぜひ最後までお読みください。　～広報部～

アスペルガー症候群傾向をもつ児童（以下：本児）に対して、保護者、通級指導学級等と連携しながら、主に在籍校で行った支援について報告します。

一、本児の特徴

本児は、一年生の男子児童で、入学前の就学相談を経て、入学当初から通級を始めていました。入学当初は感情のコントロールが困難で、自分のやりたいことがやれなかったり、ゲームに負けたりすると、泣いてぐずったり物を投げたりする行動が見られました。

絵を描く能力が非常に高く、立体文字を描いたり、全校遠足の時、立体迷路で遊んだ様子を立体的に捉えて描いたりすることができていました。絵を描くことは好きなので図工や絵を描く作業の入る学習には集中できるのですが、自分の興味のない学習については集中できず、ノートにはいつも絵を描いてばかりいました。この時点ですでに一～二年生半ばぐらいの漢字を習得していて、ひらがなの学習では物足りなかったのかもしれません。

集団行動をとるのが苦手で、五月の運動会の練習では、待っている時には近くの友達に砂をかけたり、あらぬ方向に走り出したりしていました。本番では、六年生の組体操が印象に残ったのか、閉会式の間、ずっとわたしの手を使って、組体操のまねごとをしていました。

友だちとのかかわりでは、学習中でも隣の友だちの机の上に体を乗せたり、ちょっかいを出したり、時には友だちの物をとって、壊してしまうこともありました。本児への刺激を減らすこと、隣の友だちを本児からのちょっかいから守るために、四月下旬には席替えをしました。本児の座席は担任の目の前にくるように、窓側の最前列にし、なお且つ一人席にしました（以来、本児の席はずっとここに固定）。

授業中は、普段と違うことが起きる（管理職が授業観察に来る、栄養士が特別に授業をする、等）と、落ち着かなくなって声が出たり、時には「出て行け。」と暴言を吐いたりすることもありました。授業を妨害するような声出しも見られ、廊下に連れて行ってそのような行動を慎むことを話しました。

当番活動等、やることがはっきりしていることについては、黙々と最後までやり遂げる姿が見られました。

二、支援の経緯

通級の先生には一～二週間に一度のペースで電話をして、具体的に次のようなアドバイスをしていただきました。

- 「○○してはダメ。」と言うのではなく、「○○しましょう。」と指示すること。
- 無駄な刺激（特に目からの）を少なくする。
- 字からの情報をよく捉えるので、約束事を字に書いて前に貼っておく。
- 刺激になるものは片付ける。

五月の下旬には、専門家チームの方から次のようなアドバイスをしていただきました。

- ダメ出しの場面を絞る。
- 「大好きな先生の言うことだから聞く。」という方向にする。
- 一年生としてできて当たり前のことでも、言葉で褒める。

これらのアドバイスを受けて、登校時や、下校時にするべきこと（荷物の整理の仕方など）を書き表したカードを本児の机の横に貼りました《資料①②③》。

「口を閉じる」「話を聞く」などの指示カードも作りましたが、「口を閉じる」カードを見せると「（カタカナの）ロを閉じる。」と茶化されてしまったので、このカードはすぐにお蔵入りにしました《資料④》

六月に入ると個人面談期間に入り、本児の場合は校長同席の下、父親と面談することになりました。そこで父親から毎日本児の学校の様子を連絡帳で知らせてほしいとの要望があったため、本児のできているかどうか知りたいことを一覧表にしてもらい、それについてわたしが三段階で評価して週末に一言添えて家庭に持ち帰らせました（これは、一学期のみの実施）。

その後、通級の先生との話し合いで「この表自体はとてもいいが、父親への報告のみに留まってしまう。本児自身の成長に反映できる取り組みはないものか。」となり、本児のための頑張りカードを作り、二学期

金曜日

1. たいそうぎぶくろと、うわばきぶくろを、つくえの上にもってくる。
2. きゅうしょくとうばんだったら、はくいをつくえの上にもってくる。
3. げたばこで、うわばきをうわばきぶくろにいれる。うわばきを、もってかえる。

③

さよならのまえにすること

いつもの日

1. お手がみとれんらくちょうが、れんらくぶくろにはいっているか、たしかめる。
2. おかえりのへやのものを、ランドセルにいれる。
3. なふだをはずして、おとまりのへやにいれる。
4. きゅうしょくぶくろを、ランドセルのフックにかける。

②

あさ、学校にきたらすること

いつもの日

1. ランドセルの中のものを、おかえりのへやにぜんぶいれる。
2. きゅうしょくぶくろを、つくえのよこのフックにかける。
3. 手がみやれんらくちょうを、オルガンの上に出す。

月曜日

1. たいそうぎぶくろと、うわばきぶくろを、ろうかのフックにかける。
2. はくいをもってきたら、まえのフックにかける。

①

がんばりカード　　※めあてができたら、シールをはります。

	1しゅうかん、がんばること	シール	じぶんできめて、がんばること	シール	先生からひとこと
日（月）					
日（火）					
日（水）					
日（木）					
日（金）					

おうちの方へ

⑤

いすに　すわる

おはなしを　きく

口をとじる

ともだちに
手をださない

④

から取り組むことにしました。項目は担任から見て努力してほしいこと（特に学習中）、本人が頑張りたいことの二項目にし、担任から出しためあては、一週間継続しました。評価は毎日、カードは一週間分を一枚にしました。本人のモチベーションが上がる書式になるよう、通級の先生にアドバイスしていただきました。また、担任から出しためあては、本人にとって取り組みやすいものにし、一週間継続できたらレベルアップしていくことも教えていただきました《資料⑤》。

できる限りその日の下校時に振り返りをするようにしました。めあてが達成できたらシールを貼ります。また、表の右側に「先生からひとこと」の項目を作り、その日頑張れたことを、本人に向けて書きました。そして、表の一番下に「おうちの方へ」の項目を設け、一週間の本児の様子を伝えていきました。

「べんきょう中はだまっている。」から始め、「いいたいことがあるときは、手をあげる。」「ノートやプリントをしっかりかく。」と、そのめあてを変えていきました。それにつれて、勉強にも集中できるようになってきました。ノートのお絵描きも減り、ノートをしっかり書くようになってきました。

二学期に入ってから、本児に変化が見られるようになりました。友だちに対するちょっかいがエスカレート

してきたのです。髪の毛やほほを引っぱる、服をめくる、叩くなどです。友だちの首筋に爪を立て、小さな怪我を負わせることも起きました。思ったことをそのまま口にするので、「ばか」「へた」「でぶ」などの暴言も増えてきました。また、それらの言動が一人の友だちに集中する傾向も見られました。本児にとっては友だちにかかわろうとしての行動なのですが、友だちにとっては、嫌がらせになってしまうことを分からせる必要が出てきました。

そこで最初は「それは、嫌がらせです。」と口頭で伝えていたのですが、「それは、先生前には言わなかった。」と、反論してきたので、嫌がらせになることを小さいホワイトボードに列記し、本人の目のつくところに置きました。でも、それではあまり効果が上がらないと考え、先に書いた頑張りカードとは別のカードを作りました。そのカードには「いやがらせをしないがまんできたらはなまるです！」という題名をつけました。項目を大きく「おともだちにしてはいけないこと」「おともだちにいってはいけないこと」の二項目に分け、具体的に嫌がらせ行動と発言を表にしました。これも先の頑張りカードと一緒に下校時に振り返りをしました。こちらは表に書かれたことをしなかった（我慢できた）ら花丸を書き、一週間継続できたら、シールを貼りました。そして、一つの課題を二週間継続して我慢できたら、表からその課題を消していくことにしました《資料⑥》。

始めてから四週間程して、少しずつですが、課題が減ってきました。敢えて同じ内容の表を使い続け、修正テープで課題を消していき、課題が減ったことを実感できるようにしました。時には新しい課題が追加されてしまうこともありましたが、自分の課題が減っていくのが嬉しかったようです。課題が半分程度になった頃「これが全部なくなったら完璧？」とわたしに尋ねてきましたので、「そうですよ。」と答えました。始めたころは二十個ほどあった課題が、一年生が終わる頃には四個程になりました。

三、成果と課題

二年生になってからも、本児の担任をしています。二年生になってからも頑張りカードと嫌がらせをしないカードを続けていましたが、二ヶ月程でやめました。その必要をあまり感じなくなったからです。友だちへのちょっかい、学習への取り組みに課題が感じられた場合は、「それは、頑張りカードに書くことですよ。」とか「頑張りカードをまた始めますか？」などと言うと、大抵おさまります。

入学当初、他の児童より上回っていた学力（特に漢字を書く力）が、だんだん他の児童の方が上回ってきています。また、音楽の鍵盤ハーモニカの学習が追い付けない状態で、授業中あたふたする場面があると、音楽の専科教員から聞いています。

また、四月には三年生に進級します。クラス替え、担任の交替、図工専科、算数少人数学習の始まりなど、一年生から二年生に上がるとき以上に変化が多いことから、不安定になることが予想されます。次の担任、校内特別支援委員会、通級学級と更に連携を深め、支援を続けていく必要があると考えられます。

いやがらせをしない。・・・がまんできたらはなまるです！

		日（月）	日（火）	日（水）	日（木）	日（金）	1しゅうかんのまとめ
おともだちにしてはいけないこと	ふくをめくる。						
	だきつく。						
	もちものを　とる。						
	かみのけを　ひっぱる。						
	ほっぺたを　ひっぱる。						
	つくえの上に　らくがきをする。						
	つくえのうえに　あがる。						
	こくばんに　らくがきをする。						
	こくばんけしを　たたく。						
	からだを　たたく。						
	つめを　たてる。						
	ともだちのものを　こわす。						
おともだちにいってはいけないこと	ばか						
	へた						
	びり						
	どべ						
	ぬすむな。						
	よびすてにする。						
	でぶ						
	つるださんを、つるぱとよぶ。						
はなまるのかず							

⑥

第四十七回全国情緒障害教育研究協議会　兵庫大会案内

平成二十六年八月七日～八日の二日間、兵庫県西宮市の関西学院大学上ヶ原キャンパス・聖和キャンパスにおいて全国情緒障害教育研究協議会兵庫大会が開催されます。大会テーマは「一人一人の自立を支える連続した支援の充実をめざして～ライフステージに応じた指導・支援、連携のあり方を探る～」というものです。

大会第一日目には、特別講演として「発達障害を考える　ある家族の歩み　～トーク＆ピアノコンサート～」が企画されています。講師は、神戸女学院大学音楽学部教授中村健先生と息子さんの作曲家・ピアニストの中村徹さんです。徹さんは、高機能自閉症の音楽家としてテレビ番組で紹介されたこともあります。六年前の第四十回尼崎大会でも親子での共演があり、大変感動的なステージであったことが鮮明に記憶に残っています。今回も当事者、家族から直接貴重な話が聞ける機会として、多くの学びがあることと思います。この他にも大会二日間のプログラムは大変充実した内容で構成されています。ぜひ大勢ご参加ください。

全情研事務局長　有澤直人

活動報告

＊庶務部（担当Aブロック）
台東区立平成小学校　佐野圭一

○経費削減…封筒の再利用。定期総会資料の冊数減。
○関係会議の開催…幹事代表者研修会四回、合同幹事研修会三回、部長副部長研修会七回。ブロック研修会一回～三回。定期総会。
○設置校長会の開催…四回。
○教育研究普及事業…東京都教育委員会研究推進団体として認定され、研究成果を都の教員が共有できるように普及する使命を担う。普及のための経費が支給され、研修会等に担当指導主事の派遣を要請できる。今年度は対策調査研究部担任研修会に一回、役員会・設置校長会に一回の計二回派遣要請した。
○学級名簿を発行…全設置校に二部ずつ（校長室・学級分）配布。次回発行は、平成三十年度を予定。
○国立オリンピック記念青少年総合センター…児童青少年団体として認定されており、センターを研修会等の会場として利用できる。

＊会計
武蔵野市立第二中学校　野津康司
武蔵野市立桜野小学校　原田理沙

二月末現在において、昨年度より引き続いた各部担当の皆様のご協力、ご尽力によって、計画通り予算の執行をすることができています。分担金収入の増加が見込めない中、支出を抑え、経費削減をすることは、次年度の研修や広報など、活動の継続と促進に繋がるかと思います。今年度の皆様の取り組みに心より感謝申し上げます。

次年度も引き続き、可能な部分の節約と計画的な予算の運用が求められます。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

＊設置校部
練馬区立豊玉南小学校　坂井英子

設置校部は、情緒障害学級担任の専門性を高める場として、年間五回の分科会と担任総会、通級入門分科会、夏季集中研修会、各区市町村別研修会を実施しました。

本年度も四分科会（コミュニケーション指導、運動・音楽等、発達障害、思春期対応）に分かれて研修を行いました。各分科会では、年間テーマを設定し、講師等を招いての専門的な研修や実技研修、施設見学、各学級の指導実践の紹介等を行いました。各分科会の活動内容は、「分科会報告資料」として冊子にまとめますので、ご覧下さい。

夏季集中研修会は、講演会・公開ディスカッション・グループ討議の内容で実施しました。講演会は、小池敏英先生（東京学芸大学）に「通常学級における読み書きにつまずきのある子への支援」についてお話いただきました。公開ディスカッションは、「東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画～各モデル地区と巡回指導について～」というテーマで行いました。モデル地区となっている四区市の先生方をシンポジストとして各モデル地区の様子と巡回指導についてディスカッションしました。約十名前後のグループに分かれ、グループ討議を行いました。今回は各グループにスーパーバイザーとして都情研のベテランの先生方に入っていただき、各学級の話や悩んでいることなどを話し合いました。また、他地区の先生方と交流し、様々な情報交換をすることができ、実り多い研修会となりました。

近年、情緒障害学級の新設や学級増により、新しく情緒障害学級担任となる方々が大変多くなりました。そこで通級入門分科会は六月に小・中学校別に行いました。小学校は二会場で「通級指導学級の指導と役割」中学校は「中学校の通級指導学級（不登校・発達障害）について」、ベテランの先生方にお話いただきました。

講師の先生方、各分科会世話人等の方々のご協力により、本年度もこれらの活動を無事に行えましたことを感謝の気持ちを込めて、ご報告いたします。

＊対策・調査研究部

八王子市立松が谷小学校　長澤雅彦

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画を受けた、北区・目黒区・狛江市・羽村市における特別支援教室・巡回指導のモデル事業の二年目が終わろうとしています。平成二十六年度末にはそのガイドラインが作成され、平成二十八年度には実施が予定されています。

現在モデル地区において検証作業が進んでおりますが、小学校の通級指導学級にとっては、指導形態や研究の方向性などにおいて、大きな転換期を迎える可能性があります。

今後も、皆さんのご意見・お考えを伺っていきたいと思います。

また、もう一つの大きな課題として、中学校の情緒障害等学級の現状があげられます。発達障害の対応だけでなく、医療機関と連携が早急に必要なケースや、不登校状態の生徒の受け入れ等の現実があり、日常の学習・生活指導はもちろん、進路指導が大変難しくなっています。

五月　学級実態調査の実施

情緒障害等学級在籍の児童・生徒数の増加傾向は続いております。また、情緒学級の経験年数が浅い先生方が多く、専門性を高める研修の必要性が浮き彫りになっています。

七月　三者連絡協議会

都情研と都弱視教育研究会、難聴言語障害教育研究会との研修を行い、連携を深めました。

八月　都教育庁との意見交換会

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画の内容について、また、中学校情緒障害等学級に在籍している生徒の実態や進路についての意見交換を行いました。

特別支援教室の設置、巡回指導の在り方等を含めて、多岐に渡る諸課題を残り二年間のモデル事業において検証していくという内容でした。また、中学校に関しては小学校のモデル事業の結果を踏まえて検討するという内容でした。

十一月　担任研修会

東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課主任指導主事の伏見明先生をお招きして、特別支援教室構想及び巡回指導に関する内容についてご講演いただきました。

発達障害の児童・生徒への支援体制の整備、特別支援教室の導入などについて詳しいご説明があり、特に小学校の通級指導学級にとっては、指導内容や指導形態等に大きな変化を求める内容でした。今後、都情研の研究全体の問題としても、検討していく必要があります。

＊特別研究部

練馬区立光が丘四季の香小学校　福岡　優紀

七月三十一日・八月一日に狛江市エコルマホールで夏季研修会を行いました。今年度は九百名という過去最多数の申し込みがあり、収容人数の関係上、七百名の先生方にご参加いただきました。

第一回研修会には玉井邦夫先生（大正大学教授）、第二回研修会は藤堂栄子先生（ＮＰＯ法人ＥＤＧＥ会長）、第三回研修会は中田正敏先生（明星大学特任准教授）、第４回研修会は川崎葉子先生（むさしの小児発達クリニック院長）を講師に迎え、ご講演いただきました。研修会アンケートには「勉強になった。」などの声が多く、有意義な研修会となりました。

来年は、通常学級の多くの先生方が苦慮されている「保護者対応」をはじめ、授業や指導で活用できる「ＩＣＴ機器タブレット端末を使った支援」をテーマにした講演を企画しています。今後も参加者にとって実り多き研修会を開催できるよう努めて参ります。

＊広報部

調布市立柏野小学校　大嶌　知

情緒障害等学級の先生方だけではなく、通常学級の先生方にも役立つ情報を提供するため、総会及び夏季研修会の二つの講演の要旨を掲載しました。また、今号には、通常学級における支援の参考になればと考え、寄稿文をお願い致しました。

予算厳しい中、毎号六ページでの発行、各校一部ずつの配布が続いています。より多くの方々に読んでいただけますよう、今後も各校での増刷り等のご協力をお願い致します。

情緒障害等学級の先生方には、「みちびき」を介して通常学級の先生方とより一層連携をとっていただく等、有効利用をしていただけると幸いです。

編集後記

編集・発行　広報部
広報に関するご意見、ご感想がありましたら、お寄せ下さい。
調布市立柏野小学校
☎０４２－４８８－２８６１
印刷　㈱ワールドミーティング